

浦安市において若年性認知症を共に考える研修等事業

社会福祉法人 東京栄和会うらやす和楽苑

〒279-0001 千葉県浦安市当代島 2-14-2

助成事業の概要

活動拠点である千葉県浦安市は、千葉県内初となる認知症施策に関する条例「浦安市認知症とともに生きる基本条例」を令和 4 年 7 月 1 日施行したが、各関係者や一般市民に若年性認知症に関する知識や対応の現状などの情報提供が充分に行われていない。当法人が他地域において若年性認知症について先駆的に取り組んできた実績を発揮し、令和 6 年度に、広く市民にも参加していただけるよう若年性認知症シンポジウムを 7 月と 11 月の 2 回開催（浦安市共催、浦安市社会福祉協議会・浦安市介護事業者協議会後援）、第 1 回基調講演は NPO 法人若年認知症サポートセンター理事長宮永和夫氏より「若年性認知症に対する基礎的理解と対応」について、トークセッションは市内在住当事者ご家族と支援に携わった方々、第 2 回基調講演は脳科学者である東京大学大学院総合文化研究科特任研究員の恩蔵絢子氏より「脳科学から見た認知症～その人らしさは失われない～」、トークセッションは市内で実際に若年性認知症対応を実践している状況を動画で紹介した。又、市内を活動拠点としている各事業所に対し、「若年性認知症の方の受け入れは可能か否か」等の質問紙調査を実施し、市内における若年性認知症関連の情報とシンポジウム結果とともに、市民向け情報誌に掲載することで情報提供の最適化を図った。

事業の成果

計画当初から浦安市福祉部高齢者包括支援課との協議を重ね、浦安市との共催及び浦安市社会福祉協議会並びに浦安市介護事業者協議会の後援を得る中、若年性認知症の対応について如何に市民に知っていただき、共に考えていくことが出来るかを継続検討することができた。又、今活動は、浦安市認知症総合施策検討委員会や浦安市地域支え合い会議等多くの理解も得られ、浦安市長も 2 回のシンポジウムに直接参加するなど高い関心が寄せられた。第 1 回目のシンポジウムにおいては、知識として若年性認知症を理解していただく一方、トークセッションに当事者家族が登壇し発症から今日に至るまでの経過を語り、参加者が我が事として理解するうえで大きなインパクトを与えた。2 回目は実際に母親を介護した脳科学者より「その人らしさは失われることがない」という講演と、実際に市内において若年性認知症相談対応と就労型通所対応されている事業所の活動場面を動画で見ていただいていたトークセッションは、多くの参加者が具体的対応の理解として共感を得た。多くの市民参加が得られるシンポジウムを目途に広報に努め、1 回目は広報による参加が参加者 119 名の内 23.3%、2 回目は参加 131 名中 41.8% と向上した。それぞれシンポジウム後に開催概要を広報し、市民への情報提供を通じて少しでも若年性認知症のことを知っていただく機会にすべく対応することができ、第 2 回目の参加者増につながった。また、市内を対象に活動する介護関連事業所 45 か所へのアンケート調査を実施

し、多岐にわたる 23 事業所より回答を得た（回答率 51%）。これまで若年性認知症の方あるいは若年性認知症と思われる方を受け入れたことがあるかとの質問には、居宅介護支援事業所を中心に半数以上の事業所が「ある」とし、実際の対応経験や課題などが回答された。今後の若年性認知症の受け入れについては、「機会があれば受け入れたい」が 82.6% とし、様々な考えについて回答が得られた。各回シンポジウム参加者からのアンケート結果や事業者向けアンケート調査結果について、関わりのある方々に詳細をフィードバックすることで、関係者の関心を一層高めていく活動を行った。一方、市民に対していかに知ってもらえるよう努力できるかについては、民間の地域新聞を活用することによって直接市民に活動内容を知らせ、結果を公表し、年間活動の成果について浦安市の相談窓口や資料入手方法をも包括した内容として 1 面全紙掲載することで全世帯の約 7 割に直接情報を届けた。

浦安市において令和 4 年 7 月に「浦安市認知症と共に生きる基本条例」が制定され、誰もが認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを展開する中、若年性認知症についての認識を広く市民とともに共有し深める活動は、極めて必要性の高い時を得た活動だと考えた。市民とともに若年性認知症を考え共に歩んでいく姿勢を再確認し、市民と共に不安だけではなく安心を共有する段階に引き上げる機会づくりとなった。また、シンポジウムを開催するにとどまることなく、結果を情報発信することによりシンポジウム効果の最大化を計ることができ、さらなる市内認知症対応の進展に繋げることができた。地域で活動する社会福祉法人がこのような地域貢献活動を展開することは、認知症の課題にとどまることなく市内の様々な福祉活動の更なる活性化に貢献することができたと自負している。

■ 成果の広報、公表

浦安市には現在 87,345 世帯が暮らしている。その市民に広く若年性認知症について周知・啓発することが、事業タイトルにある「若年性認知症を共に考える」ことにつながると確信しているが、これまで如何に市民に広く知っていただくかの方法（周知方法）については壁があった。そこで令和 6 年度は、浦安市全域に毎週 6 万部を配布する「浦安新聞」に 1 年を通して事業活動を追う取材を依頼。記事で情報を発信し続けた。結果、2 回開催したシンポジウムでは計 250 人の参加があった他、シンポジウムの内容を記事で紹介し参加していない市民に向けても若年性認知症の課題を共有、相互理解へと繋げることができた。1 年間の活動をまとめた報告についても記事報告とし、介護事業者からのアンケート結果も掲載。受け入れ側の課題と今後の展望も紹介。さらに、本事業と浦安市高齢者包括支援課および浦安新聞とが連携し、若年性認知症の相談窓口の存在を告知することができた。官民が一体となり、若年性認知症になっても安心して暮らせる街づくりを展開する礎ができたと思う。令和 7 年度はこの体制をさらに進展させ、市民を巻き込んだ活動を続けていきたい。

■ 今後の展開

令和 7 年度中に 2 回、「浦安市において若年性認知症を共に考えるシンポジウムⅢ及びⅣ」を開催予定。その際、当法人うらやす和楽苑が主催、浦安市共催のもと市内各関係者が一体となって開催する形として取り組む。シンポジウムⅢについては、若年性認知症をテーマとして扱った映画「オレンジランプ」の上映と、原作者である株式会社ワンダーラボラトリー代表取締役 / プロデューサーの山国秀幸氏を交えたトークセッションを

企画、映画を通じ多年代の方々に理解を促す機会とする。シンポジウムⅣについては、基調講演 1. として千葉県若年性認知症支援コーディネーターである藤田睦美氏に「若年性認知症支援の現状とこれから」について依頼、基調講演 2. として、「（仮称）浦安市認知症とともに生きる基本計画の策定と若年性認知症」についてを浦安市担当課に依頼、基本となる若年性認知症支援についての理解に加え、策定予定である浦安市における基本計画と若年性認知症支援について市民と共に理解し、今後更に認知症とともに生きることの出来る浦安市を考える機会としたい。シンポジウム前後となる 7 月上旬と 3 月末には、シンポジウムの告知及び実施結果や「（仮称）浦安市認知症とともに生きる基本計画」の内容と若年性認知症に関わる市民向けの情報提供について、地域新聞への掲載配付の手法で実施することにより、市民の 7 割の世帯に対し若年性認知症について知っていただく機会を提供する。また各事業所や関係者等に配布し、広く市民及び関係者の目にも留まるよう配慮する。この活動を通じて、浦安市内における若年性認知症対応の理解が各層において深まり、同時に市民と共に今後の課題抽出や課題整理の一端を担えるよう、うらやす和楽苑として「地域と共に歩む」を念頭に尽力していく。